
6本の赤い糸

佳南

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

6本の赤い糸

【Nコード】

N0039C

【作者名】

佳南

【あらすじ】

理由つきで部活をやめた杉野漣。部活をやめたばかりの漣の元の名前の知らない男子が二人たっていた。その二人にバンドに入らなしかと誘われ、軽い気持ちでバンドに入ることになった。バンドメンバーの中で起こる、問題、事件、恋愛。中学生を大いに楽しもうとしている青春小説。

第一話 バンド（前書き）

バンドってかっこいいと思わない！？
そんな中学二年生の青春小説。

第一話 バンド

あたしは杉野濤中学二年生。

8月、吹奏楽部をやめた。

ただ飽きてしまったわけでもない。

練習がつかつたわけでもない。

理由があつたけどそれはまたあとで。

今は思い出したくないんだ。

退部届けを担当の先生に出した。

「なんだ、杉野部活やめるのか。」

先生にハンコをもらう。

少し斜めって担任の先生の苗字が赤の丸の中に納まっていた。

その次に顧問の先生に見せる。

「え、杉本さん部活やめるの??」

吹奏楽部の顧問の先生は、ふんわりしてどこまでも優しそうな先生だった。

「はい。」

先生が不思議そうにこっちを見る。

「どうして??」

「その用紙に書いてあるとおりです。」

先生は声に出して読んだ。

「勉強に身が入らなくなつて、テストの点数が落ちてしまったため。」

嘘。

ただ今それはそれくらいの嘘しか思いつかなかった。

「今までおつかれさま。」

そういつて先生はふんわりした笑顔で笑った。

「ありがとうございます。」

そういつて頭を下げてから職員室を出る。

職員室を出ると見慣れない男子が二人、あたしを見ていた。

「杉本滯!？」

そういつて右側の男子があたしを指差した。

「あ、うん。そうだけど何？」

今度は左側の男子が言った。

「お願いがあるんだけど！」

何でこの人たちはこんなにも必死なんだろう。

こんなに暑い夏なのに。関係ないか。

「えーと、お願いいつて何？」

男の子たちはお互いの顔を見詰め合いつてからいつせーのーでいつた。

「バンド、やる気ない!!!??？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0039c/>

6本の赤い糸

2011年1月1日02時13分発行